

あだちの 野鳥

区内で会える野生の鳥たち

この本を持って、
近くの公園に
おでかけしません？



はじめに

足立区では、年間を通して約70種類もの野鳥を観察することができます。

いつも散歩しているあの道も、何気なく通り過ぎて
いるあの公園も、実は野鳥たちの憩いの場所かもしれ
ません。



この冊子を持って、

足立区内の野鳥を探しに、さあ出かけましょう！

もくじ



やちょう ほか せいぶつ かか 野鳥と他の生物との関わり	4
---------------------------------------	---



やちょう あだちの野鳥のために まも かんさつ 守ろう! 観察マナー	5
---	---



へ 減りつつある あだちの野鳥	6
--------------------------	---



くない 区内のバードウォッチングポイント	8
-------------------------------	---



きほん バードウォッチングの基本	12
---------------------------	----



み やちょう あだちで見られる野鳥	13
----------------------------	----



さくいん	29
------------	----

野鳥と他の生物との関わり

みなさんは「食物連鎖」という言葉を知っていますか？
 一口に野鳥といっても、その生態は様々。野鳥は、その
 種類によって捕食者にも被食者にもなるのです。
 野鳥は他の動物や植物と、繋がって生きています。



あだちの野鳥のために 守ろう！観察マナー

野鳥と人間がWIN²(ウィンウィン)な関係であるために、
観察する際は自分本位ではなく、次のルールを守って観察
しましょう。

1 餌付けをしない

「近づいてみたい」、「いい写真が
撮りたい」などの理由で、過度に
餌付けをする行為はやめましょ
う。餌付けによって、自分で餌が
とれなくなる個体もあります。

2 鳥との距離を保とう

適切な距離は鳥によって異なり
ますが、鳥が逃げたらストレス
を与えている証拠です。
撮影・観察するために近づき過
ぎないようにしましょう。

3 繁殖期には 巣に近づかない

特に抱卵や給餌の時期は巣に近づ
きすぎではいけません。親鳥が危
険を察知して巣を放棄してしまう
可能性があります。

- ※1 親鳥が卵を抱き温めること
- ※2 親鳥が幼鳥に餌を与えること



幼鳥に給餌するツミ



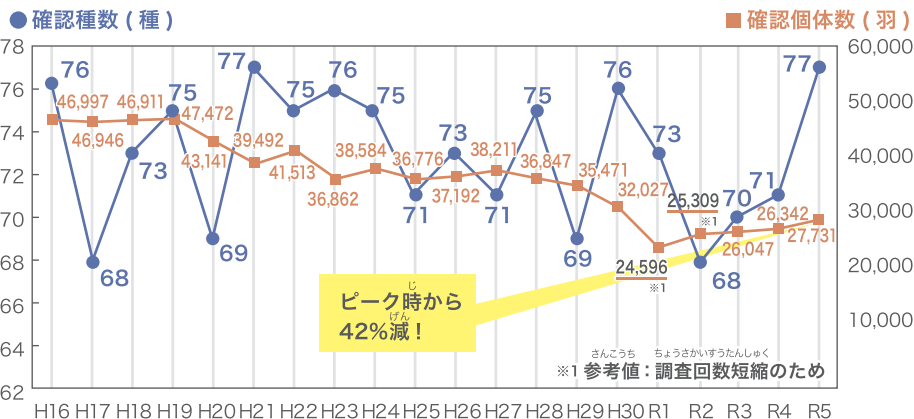
チョウゲンボウの幼鳥

減りつつある あだちの野鳥

あだちく へいせい ねんど くない わ
足立区では、平成4年度から区内を40のブロックに分けて
しゅすう こたいすうとう ちょうさ あだちく やちようせいそく ちょうさ けいそく
種数・個体数等を調査する「足立区野鳥生息調査」を継続
じっし
して実施しています。

しゅすう よこ こたいすう げんしやうけいこう あだちくやちようせいそくちょうさ
■種数はほぼ横ばいも個体数は減少傾向（足立区野鳥生息調査より）。

へいせい ねんど れいわ ねんど ひかく かくにんこたいすう やく げんしやう
平成19年度と令和5年度を比較すると確認個体数が約42%減少して
います。



あだちくやちようせいそく ちょうさ にな やちよう
■足立区野鳥生息調査を担う、「野鳥モニター」になろう



あだちくやちようせいそく ちょうさ やく にな やちよう
足立区野鳥生息調査は約40人の「野鳥モニター」
のきやうりやく じっし
ご協力により実施しています。

やちよう
野鳥モニターとは？

- く ない たんとう ちい き やちよう せいそく ちょうさ
・区内担当地域で野鳥の生息調査をするボランティア。
- ねんかい かい きすうつき ちょうさ おこな
・年間6回（奇数月）調査を行う。
- けつ いん しょう ばあい げんそく ねんどまつ ころほう
・欠員が生じた場合（原則として年度末）「あだち広報」や
く 区のホームページで募集する。

■あだちの野鳥のために、あなたにもできる、こんなこと

ひごろ せいかつ つぎ あだちく やちよう
日頃の生活で次のようなことを心がけ、足立区の野鳥を
まも
守っていきましょう。

1 ペットは最後まで責任を持って飼おう

とり かぎ
鳥に限らず、どんなペットでも
さいご せきにん か
最後まで責任をもって飼いま
しょう。むやみにペットを野生
はな せいたいけい くず
に放つと、生態系のバランスを崩
ましてしまう恐れがあります。

2 足立区を野鳥の住みやすい街にしよう

にわ
庭やベランダのちょっとしたス
ペースに、花や木、水草などを
そだ たり た
育てることで、鳥の食べものを
ふ
増やすことができます。

3 地球にやさしい買い物をしよう

かんきよう はいりょ しょうひん えら
環境に配慮した商品を選ぶこと
も、地球の環境を守ること、野鳥
ちきゅう かんきよう まも やちよう
を守ることに繋がります。左右の
まも つな さゆう
マークも、商品を選ぶ際の目印に
しょうひん えら さい めじるし
なります。



▲森林や生態系などの保
ぜん ぎび きじゅん
全など、厳しい基準を満
たした農園にのみ与えら
れる「レインフォレスト・
アライアンス認証マーク」



▲適切に管理された森
りん もくざい せいひん
林の木材から製品がつ
くられていることを示
す「FSCマーク」



バードウォッチングポイント

区内には多くの公園があり、様々な野鳥を観察することができます。
その中から、代表的な公園をご紹介します。



区内のバードウォッチングポイント

ポイントの特徴



まちなか
街中



ちしょう
池沼



おがわ
小川・河川



じゅりん
樹林



くさち
草地

観察できる主な野鳥



ことり
小鳥



もうきんるい
猛禽類



サギ



カモ

「かんりやくず
簡略図」

1 舎人公園（舎人公園、西伊興町ほか）



区内1番の観察スポット

一年を通じて区内で、1番多くの野鳥が観察できる。時によっては1日30種以上を確認できることも。観察しやすい「バードサンクチュアリ」もある。



2 桑袋ビオトープ公園（花畑八丁目2番2号）



生きもののオアシス

生きものが集まるハス田、浮島を備えたビオトープを整備。自然解説員も常駐している。双眼鏡の貸し出しもある。



3 神明六木遊歩道（六木三丁目52から神明一丁目12）



古木に響く鳥のさえずり

江戸時代に植えられたケヤキやスダジイなど多くの樹木が並び、江戸川沿いの遊歩道。夏にはセミの羽化の観察もできる。



4 佐野いこの森緑地（佐野一丁目31番11号）



鳥と人との「憩いの森」

多種、多数の樹木があり、秋にはたくさんのどんぐりを採らせる。森を散歩しながらコゲラなどの野鳥に出会える。



5 都市農業公園 (鹿浜二丁目44番1号)



野鳥観察だけじゃない

夏期を中心にダイサギやアオサギなどが観察できる。園内で栽培した無農薬野菜を使うレストランや四季折々の花も魅力。



6 新田わくわく♥水辺広場 (新田二丁目・三丁目地先)



木道から自然に触れあえる

池や湿地、草地といった多様な環境で、さまざまな生き物を観察できる河川敷の広場。木道も整備されている。



7 千住新橋緑地わんど広場 (足立一丁目・二丁目地先)



時にはハヤブサも!

草地やワンド、干潟などが多様な生き物を育てている。オオヨシキリや、ときにはハヤブサなども観察できる。



8 元渚江公園 (保木間二丁目17番1号) 【生物園】



「生物園」のある公園

生物園が併設されている公園。サクラやメタセコイアをはじめとした多くの樹木が楽しめる。池にはカルガモの姿も。



9 しょうぶ沼公園 (谷中二丁目4番1号)

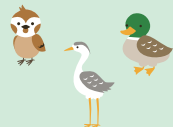


 6月に「しょうぶまつり」開催

5つの菖蒲田には約140品種

8,100株のハナショウブが。

園内のせせらぎにはカルガモ・オナガガモの姿が見られることも。



10 東綾瀬公園 (東綾瀬一・二・三丁目、綾瀬三・五・六丁目、谷中一丁目)



 街ナカ観察スポット

公園西側の散歩道沿いに、かつての農業用水を活かしたせせらぎが流れている。豊富な植物や、野鳥を観察できる。



11 見沼代親水公園 (舎人四丁目5番から古千谷本町四丁目8番)



 カモの親子がすぐそばに

水辺に集う生き物や四季折々の

花を楽しみながら、散策できる。

春から夏に、カルガモの親子が見られることもある。



12 葛西用水親水水路 (六木三丁目38番から中川四丁目1番まで)



 水が育む野鳥のごちそう

江戸時代に農耕地の灌漑用につ

くられた用水路。ゆったりとし

た流水環境に小魚が育ち、魚を

捕食する鳥の姿が見られる。



バードウォッチングの基本



時間帯

鳥がよく動き、さえずりがよく聞こえる早朝がおすすめ

注意点

観察マナー (P5参照) を守ろう

両手がよく見えるようにリュック



長袖
長ズボン

持ち物

本冊子
「あだちの野鳥」

双眼鏡
(あればもっと楽しい!)

倍率 8~10 倍、口径 20 ~ 40ミリがおすすめ

P9②の施設では貸し出しもしています



「ものさし鳥」を覚えよう

野鳥を大きさで見分ける際に基準となる鳥を「ものさし鳥」といいます。野鳥観察にとっても役立ちます。



スズメ
(約14.5cm)



ムクドリ
(約24cm)



ハト
(約33cm)



カラス
(約50cm)

「あだちで見られる野鳥」の見方 (凡例)

日本鳥類目録順に紹介しています。

写真

ものさし鳥で見た大きさ

この鳥が好む場所

このアイコンがあるバードウォッチングポイントをP8~11でチェック!



ヒドリガモ

カラスと同じくらい

オスは黄色みがかった額と茶色の頭、胴体は灰色。メスの体は他のカモのメスよりも赤っぽい。



全長約49cm

主に見られる季節

大きさ
(平均的な成鳥)

特徴

カモ科



ヒドリガモ



全長約49cm

カラスと同じくらい

オスは黄色みがかった額おなと茶色あたまの頭、
胴体どうたいは灰色はいいる。メスの体は他のカモの
メスよりも赤あかっぽい。



マガモ



全長約59cm

カラスと同じくらい

オスは頭が緑色あたまで、白い首輪みどりいろがある。
メスは全体的に褐色ぜんたいてき。「グエッグエツ」
と鳴く。



カルガモ



全長約61cm

カラスと同じくらい

カモの仲間では珍めづらしく、オス・メス
ともに同じ色おな。一年中いちねんじゅう見ることがで
きる。「グエッグエツ」と鳴く。



ハシビロガモ



全長約51cm

カラスと同じくらい

オスは頭が光沢のある緑色あたまで、メス
は体が明るめの褐色からだ。嘴くちばしがスコップ
のような形かたちをしている。

あ
だ
ち
で
見
ら
れ
る
野
鳥

カモ科

★カモの仲間は、冬は一般的にオスが派手な色でメスは地味な褐色です。

カモ科



オナガガモ



全長約75cm

カラスより少し小さい (尾羽を含めない場合)

オスは頭が黒褐色、胸は白色。メスは全体的に茶色で細かい模様がある。名前のとおり、長い尾が特徴。



コガモ



全長約38cm

ハトと同じくらい

オスは頭が茶色で目のまわりが緑色。メスは全体が褐色で細かい模様。他のカモと比較すると小さい。



ホシハジロ



全長約48cm

カラスと同じくらい

オスは頭が赤茶色で、胸が黒色。メスは頭部から首と胸が褐色で、喉は淡い褐色。



キンクロハジロ



全長約44cm

ハトより大きい

オスは脇と腹が白く、その他は黒色。後頭に垂れ下がった冠羽※がある。メスは全体が黒褐色。

カイツブリ科、ハト科、ウ科



カイツブリ

全長約26cm

ムクドリと同じくらい

オス、メス同色。夏は顔から頭頂、後頸が黒く、頬から首横は赤褐色。冬は夏より淡い色になる。



カンムリカイツブリ

全長約56cm

カラスと同じくらい

オス、メス同色。夏は顔から頭頂が黒い。顔の後方に黒と赤褐色の飾り羽。冬は顔の飾り羽がなく、冠羽も短い。



キジバト

全長約33cm

オス、メス同色

成鳥は頭部から背、胸からの体の下面はブドウ色を帯びた灰褐色。幼鳥は全体に褐色。



カワウ

全長約81cm

カラスより大きい

オス、メス同色。全体に黒色で、背や雨覆は光沢のある茶褐色。嘴は白く口角は黄色。

あ
だ
ち
で
見
ら
れ
る
野
鳥

カ
イ
ツ
ブ
リ
科
ハ
ト
科
ウ
科

サギ科



ゴイサギ



全長約58cm

カラスと同じくらい

オス、メス同色。頭頂から背、肩羽は紺色で、後頭には白く細長い飾り羽が2本ある。



アオサギ



全長約93cm

カラスより大きい

オス、メス同色。額から頭頂と顔から前首は白く、目の上から後頭に黒線があり、後頭に長い冠羽がある。



ダイサギ



全長約89cm

カラスより大きい

オス、メス同色。全身純白。夏は嘴が黒く、胸や背に長い飾り羽。冬は嘴が黄色くなり、眼先も黄緑色になる。



コサギ



全長約61cm

カラスより大きい

オス、メス同色。全身が白く、1年中嘴が黒い。夏は後頭に長い冠羽が2本あるが、冬は冠羽がなくなる。

クイナ科・チドリ科



バン



全長約32cm

ハトと同じくらい

オス、メス同色。頭から体の下の部分は黒色で、やや灰色みがある。上の部分は緑褐色で、脇には白い斑点がある。



オオバン



全長約39cm

ハトより大きい

オス、メス同色。頭から体にかけて灰色で、嘴と額は白色。「キョン」「ピッ」などと鳴く。



コチドリ



全長約16cm

スズメと同じくらい

オス、メスほぼ同色。オスは夏は目のまわりの黄色いリングが目立つ。嘴は黒く、足は黄色。冬は全体に褐色になる。



メダイチドリ



全長約19cm

スズメより大きい

オス、メスほぼ同色。夏は頭と胸が橙赤褐色で、冬はその部分が淡褐色になる。メスはオスに比べ色が淡い。

あ
だ
ち
で
見
ら
れ
る
野
鳥

ク
イ
ナ
科
チ
ド
リ
科

シギ科・カモメ科



タシギ



全長約27cm

ハトと同じくらい

オス、メス同色。嘴が長く、背中の模様
が枯草に似ている。泥の上や浅い
水中で、嘴を垂直にさしこみ餌を探す。



チュウシャクシギ



全長約42cm

ハトより大きい

オス、メス同色。下に湾曲した嘴を持ち、
頭中央に淡い色の線がある。泥の上や
浅い水中を活発に歩き、餌を探す。



イソシギ



全長約20cm

スズメより大きい

オス、メス同色。尾をよく振る。
夏は上面が暗い緑褐色で、冬は羽縁
が白っぽくなる。



ユリカモメ



全長約40cm

ハトより大きい

オス、メス同色。嘴は細く足は長めで、
赤い。冬は頭から体の下まで白く、
夏は頭が頭巾状に濃い焦げ茶色になる。

カモメ科



ウミネコ



全長約47cm

カラスと同じくらい

オス、メス同色。尾の先に黒い帯がある。夏は頭から体の下面が白く、冬は頭に灰褐色の斑がある。



カモメ



全長約45cm

カラスと同じくらい

オス、メス同色。頭が丸く、嘴は小さい。嘴と足は黄色く、夏は頭が白くなる。



セグロカモメ



全長約61cm

カラスより大きい

オス、メス同色。冬は頭から胸に灰褐色の点々がたくさんあり、体の下は白い。夏は頭から胸が白くなる。



オオセグロカモメ



全長約64cm

カラスより大きい

オス、メス同色。セグロカモメに似ているが、成鳥の上面は濃い灰色。冬は頭から胸に灰色の斑がある。

あ
だ
ち
で
見
ら
れ
る
野
鳥

カ
モ
メ
科

カモメ科・タカ科



コアジサシ



全長約28cm

ムクドリと同じくらい

オス、メス同色。額おなは白く、頭あたまから首くびの後ろうし、目の横めの線よこが黒い。嘴くちばしは細く、頭頂部とうちようぶはやや扁平へんぺい。



トビ



全長約59cm

カラスより大きい

オス、メス同色。M形どうしよくに切れ込んだ尾えむがたを持つ。成鳥せいちょうは全体ぜんたいに茶褐色ちやかっしよくで、淡褐色たんかっしよくの斑まだらがある。



ツミ



全長約30cm

ハトと同じくらい

オスは額おなから体からだの上面じょうめんが暗い青灰色くら あおはいいろで、顎あごより下したの体からだは白く、淡い橙色しろ あわ だいだいいろ。斑まだらがないものとあるものがある。



オオタカ



全長約50cm

カラスと同じくらい

オス、メスほぼ同色。頭あたまの上うへから体からだの上面じょうめんは暗い青灰色くら あおはいいろで、足あしは黄色きいろ。

区内くないでの観察かんさつは舎人公園とねりこうえんがおすすめ！

カワセミ科、キツツキ科、ハヤブサ科、モズ科



カワセミ



通年

全長約17cm

スズメと同じくらい

オス、メスほぼ同色。頭どうしよくから体からだの上面じょうめんにかけて鮮やかな青緑色で、胸むねから下したは橙色。嘴くちばしが大きい。



コゲラ



通年

全長約15cm

スズメと同じくらい

オス、メスほぼ同色。額ひたいから体からだの上面じょうめんは茶褐色ちやかっしょくで、翼つばさはやや濃い褐色こ かつしよく。オスこうとうの後頭りょうわきの両脇あかには、赤い斑まだらがある。



チョウゲンボウ



通年

全長約33cm

ハトより大きい

オスは頭あたまと尾おの上面りょうめんが青灰色あおはいいろで、メスめすは頭頂とうちようから体からだの上面じょうめんは淡褐色たんかつしよく。ひらとひら飛ていくうび、よく低空飛翔ひしようをする。



モズ



通年

全長約20cm

スズメより大きい

オスは額ひたいから後首うしろくびにかけて茶褐色ちやかっしょくで、体からだの上面じょうめんは青灰色あおはいいろ。メスめすは体からだの上面じょうめんが褐色かつしよく。

あ
だ
ち
で
見
ら
れ
る
野
鳥

カ
ワ
セ
ミ
科
・
キ
ツ
ツ
キ
科
ハ
ヤ
ブ
サ
科
・
モ
ズ
科

カラス科、シジュウカラ科



オナガ

🏠💧🌿🌳🌱 通年

全長約36cm

ムクドリより大きい

オス、メス同色。頭が黒く、翼と尾が青灰色で、尾が長い。「ゲェーイゲェーイ」「ギューギュー」と鳴く。



ハシボソガラス

🏠💧🌿🌳🌱 通年

全長約50cm

オス、メス同色。

全身が黒色で、青紫色の光沢がある。ハシブトガラスよりも小さく、嘴は細め。



ハシブトガラス

🏠💧🌿🌳🌱 通年

全長約56cm

オス、メス同色。

全身が黒色で、青紫色の光沢がある。ハシボソガラスよりも大きく、嘴は太く大きく湾曲している。



シジュウカラ

🏠🌳 通年

全長約14cm

スズメと同じくらい

オス、メス同色。黒い頭と白い頬。胸から腹にかけて、ネクタイをしめているような黒い模様がある。

ヒバリ科、ツバメ科、ヒヨドリ科



ヒバリ



全長約17cm

スズメと同じくらい

オス、メス同色。頭に冠のような羽がある。頭から体の上面は茶褐色で、黒褐色の斑がある。



ツバメ



全長約17cm

スズメと同じくらい

オス、メスほぼ同色。額と喉が赤い。頭の上から体の上面は紺色から黒色。体の下面は白または淡褐色。



イワツバメ



全長約14cm

スズメと同じくらい

オス、メス同色。額から体の上面は紺色の光沢の混ざった黒色。顎から下は足まで白い羽毛におおわれている。



ヒヨドリ



全長約27cm

ハトより小さい。

オス、メス同色。全身が灰褐色で、額から首の後ろはボサボサしている。「ピーヨピーヨ」と甲高い声で鳴く。

あ
だ
ち
で
見
ら
れ
る
野
鳥

ヒバリ科・ツバメ科
ヒヨドリ科

ウグイス科、メジロ科、ヨシキリ科、セッカ科



ウグイス



全長約16 cm

スズメと同じくらい

オス、メス同色。額から体の上面は緑灰褐色。春は「ホーホケキョ」、冬は「チャッチャツ」と鳴く。



メジロ



全長約12 cm

スズメより小さい。

オス、メス同色。額から体の上面は黄緑色で、顎から喉、尻からは黄色。目のまわりが白い。



オオヨシキリ



全長約18 cm

スズメと同じくらい

オス、メス同色。上面は灰褐色で、下面は淡い褐色。嘴は黒褐色で長め。ヨシの生えた湿地を好む。



セッカ



全長約12 cm

スズメより小さい。

オス、メスほぼ同色。「ヒッヒッヒッ」と鳴きながら上昇し、「チャッチャ、チャッチャ」と鳴きながら下降する。

ムクドリ科、ヒタキ科



ムクドリ



全長約24cm

オス、メス^{どうしょく}ほぼ同色。

オスは頭^{あたま}から胸^{むね}が黒褐色^{こくかつしよく}で、メス^{くろみ}よりも黒味^{つよ}が強い。橙色^{だいだいいろ}の嘴^{くちばし}と白い頬^{しろ}が目立つ。^{めだ}



シロハラ



全長約24cm

ムクドリと^{おな}同じくらい

オス、メス^{どうしょく}ほぼ同色。オスは頭^{あたま}が暗い^{くろ}灰褐色^{はいかつしよく}で、背^せ以下^{いか}の上面^{じょうめん}、腹^{はら}から脇^{わき}は^{はいいろ}灰色^{はいいろ}または灰褐色^{はいかつしよく}。



ツグミ



全長約24cm

ムクドリと^{おな}同じくらい

オス、メス^{どうしょく}ほぼ同色。目の上^めの白^{うえ}い筋^{しろ}模様^{すじもよう}が目立つ。翼^{めだ}を下げ、胸^{つばさ}を反^さらせて地面^{むね}に立つ。^そ



ジョウビタキ



全長約15cm

スズメと^{おな}同じくらい

オスは頭^{あたま}の上^{うえ}が灰色^{はいいろ}で、額^{ひたい}、顔^{かお}、喉^{のど}、背^せ、翼^{つばさ}が黒褐色^{こくかつしよく}、胸^{むね}以下^{いか}は赤橙色^{あかだいだいいろ}。メスは^{あたま}頭^{あたま}から上面^{じょうめん}が灰褐色^{はいかつしよく}で下面^{かめん}は淡褐色^{たんかつしよく}。

あ
だ
ち
で
見
ら
れ
る
野
鳥

.....
ムクドリ科
ヒタキ科

ヒタキ科、スズメ科、セキレイ科



イソヒヨドリ



全長約25cm

ムクドリと^{おな}同じくらい

オスは^{あたま}頭から^{むね}胸、^せ背からの^{じょうめん}上面、^{おぼね}尾羽は^{あおいろ}青色。^{かめん}下面は^{せきかつしよく}赤褐色。メスは^{ぜんしん}全身^{はい}灰褐色で、^{あお}上面には青みがある。



コサメビタキ



全長約13cm

スズメと^{おな}同じくらい

オス、メス^{どうしよく}同色。^{あたま}頭が^く暗い^{はいかつしよく}灰褐色で、^せ背^{いか}以下の^{じょうめん}上面、^{はら}腹から^{わき}脇は^{はいいろ}灰色または^{はいかつしよく}灰褐色。



スズメ



全長約14.5cm

オス、メス^{どうしよく}同色。

頭と背は^{あたま}茶色で、^せ顔と^{ちやいろ}腹は^{かお}白い。^{はら}人の^{しろ}住むところには^{ひと}どこでも見られ、^す種子^{しゅし}などを^た食べる。



ハクセキレイ



全長約21cm

ムクドリより^{ちい}小さい。

^{なが}長い^お尾を^{じょうげ}上下に^ふ振る。オスの^せ背は、^{なつ}夏は^{くろ}黒くなる。^{おも}主に^{かわ}川や^{かいがん}海岸に住み、^す昆虫^{こんちゅう}などを^た食べる。

セキレイ科、アトリ科



セグロセキレイ      通年

ムクドリより^{ちい}小さい。 全長約21cm

オス、メス^{どうしよく}ほぼ同色。^{あたま}頭の上から^{うえ}体^{からだ}の^{しょうめん}上面、^{むね}胸にかけて^{くろいろ}黒色。^お尾は^{くろ}黒く、^{そとがわ}外側が^{しろ}白い。^{にご}濁った^な声で^な鳴く。



タヒバリ    冬

スズメと^{おな}同じくらい 全長約16cm

オス、メス^{どうしよく}同色。夏は^{なつ}頭から^{あたま}体^{からだ}の^{しょうめん}上面は^{はい}灰褐色、^{あご}顎から^{した}下が^{あわ}淡い^{とう}橙褐色。^{ふゆ}冬は^{ひたい}額から^{からだ}体^{しょうめん}の^{かつしよく}上面が^{あご}褐色、^{した}顎から^{たん}下が^{かつしよく}淡褐色。



カワラヒワ      通年

スズメと^{おな}同じくらい 全長約14cm

オスは^{かお}顔が^{くろ}黒っぽく、^{あたま}頭は^{おうりよく}黄緑褐色。^{せいか}背^{しょうめん}以下の^{むね}上面、^{いか}胸^{かめん}以下の^{ちやいろ}下面は^{みどりいろ}茶色が^{あたま}かった^{はい}緑色。メスは^{あたま}頭が^{はい}灰褐色。



シメ   冬

スズメより^{おお}大きい 全長約19cm

オスは^{めさき}眼先から^{あご}顎が^{くろ}黒く、^{あたま}頭は^{あわ}淡い^{ちゃ}茶褐色。^{かつしよく}メスは^{かつしよく}オスよりも^{つよ}褐色みが^{めさき}強く、^{あご}眼先から^{かいこくしよく}顎は^{くちばし}灰黒色。^{ふと}嘴が^{ふと}太い。

あ
だ
ち
で
見
ら
れ
る
野
鳥

セ
キ
レイ
科
ア
トリ
科

ホオジロ科



ホオジロ



通年

全長約16cm

スズメと同じくらい

オス、メスほぼ同色。頭の上から体の上面、胸にかけて茶褐色。眉斑・頬・喉が白い。



アオジ



冬

全長約16cm

スズメと同じくらい

オスは顔が黒く、頭の上から体の上面は暗い灰緑色で、顎より下は黄色。メスは頭の横の線が黒褐色。



オオジュリン



冬

全長約16cm

スズメと同じくらい

オスは夏は頭、顎から胸は黒色で、首回りから下面は白い。メスは頭から体の上面が淡い褐色。

あだちく やちよう し ひと
足立区の野鳥についてもっと知りたい人は



あだちく あだちくやちようせいそくちようさほうこくしょ どうが
足立区のホームページから「足立区野鳥生息調査報告書」「動画：あ
だちの野鳥(動画配信サイトヘリンク)」などを見ることができます。
※本冊子では平成 22 年度から令和元年度までの 10 年間の調査
で 5 年連続して確認できた野鳥のみを掲載しています。

さくいん

アオサギ	16	シメ	27
アオジ	28	ジョウビタキ	25
イソシギ	18	シロハラ	25
イソヒヨドリ	26	スズメ	26
イワツバメ	23	セグロカモメ	19
ウグイス	24	セグロセキレイ	27
ウミネコ	19	セッカ	24
オオジュリン	28	ダイサギ	16
オオセグロカモメ	19	タシギ	18
オオタカ	20	タヒバリ	27
オオバン	17	チュウシャクシギ	18
オオヨシキリ	24	チョウゲンボウ	21
オナガ	22	ツグミ	25
オナガガモ	14	ツバメ	23
カイツブリ	15	ツミ	20
カモメ	19	トビ	20
カルガモ	13	ハクセキレイ	26
カワウ	15	ハシビロガモ	13
カワセミ	21	ハシブトガラス	22
カワラヒワ	27	ハシボソガラス	22
カンムリカイツブリ	15	バン	17
キジバト	15	ヒドリガモ	13
キンクロハジロ	14	ヒバリ	23
コアジサシ	20	ヒヨドリ	23
ゴイサギ	16	ホオジロ	28
コガモ	14	ホシハジロ	14
コゲラ	21	マガモ	13
コサギ	16	ムクドリ	25
コサメビタキ	26	メジロ	24
コチドリ	17	メダイチドリ	17
シジュウカラ	22	モズ	21
		ユリカモメ	18



発行

足立区 環境部 環境政策課
〒120-8510 足立区中央本町 1-17-1
電話 03 (3880) 5860 / FAX 03(3880)5604
令和 7 年 1 月 第 4 刷発行



足立区は持続可能な開発目標 (SDGs) を支持しています。

